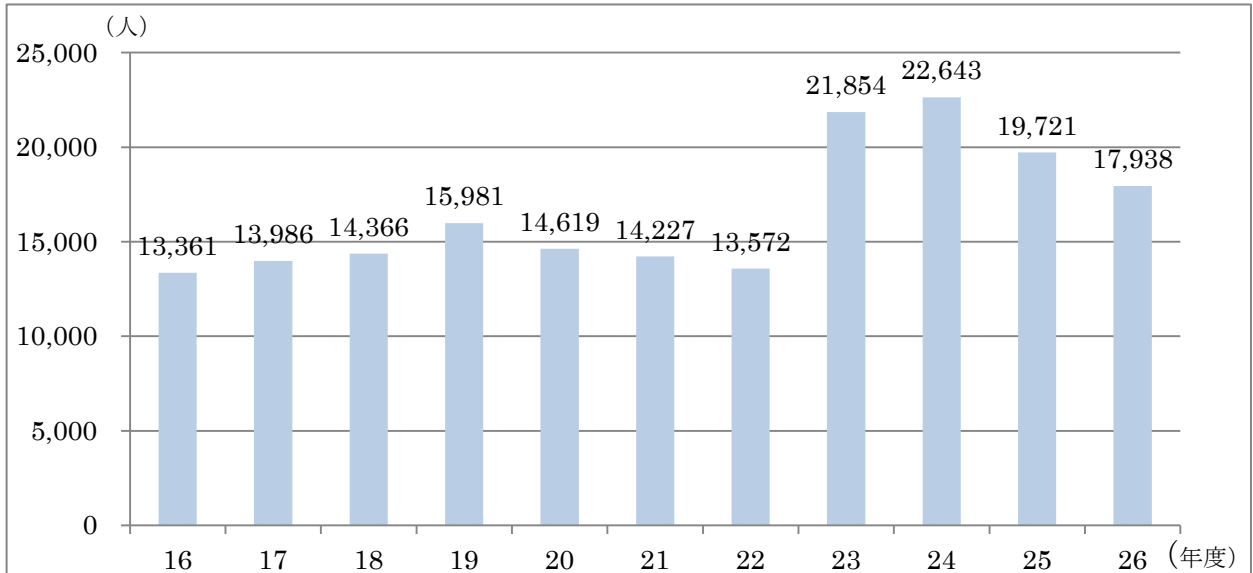


観光の動向について

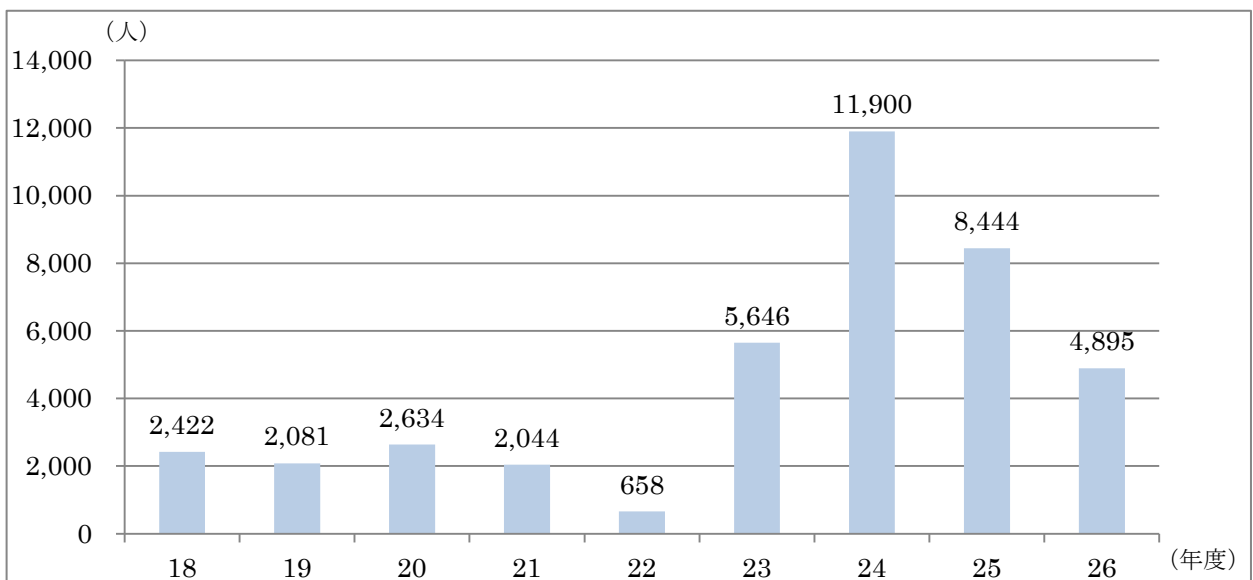
1. 観光客数の動向

(1) おがさわら丸観光客数の動向（年度別）



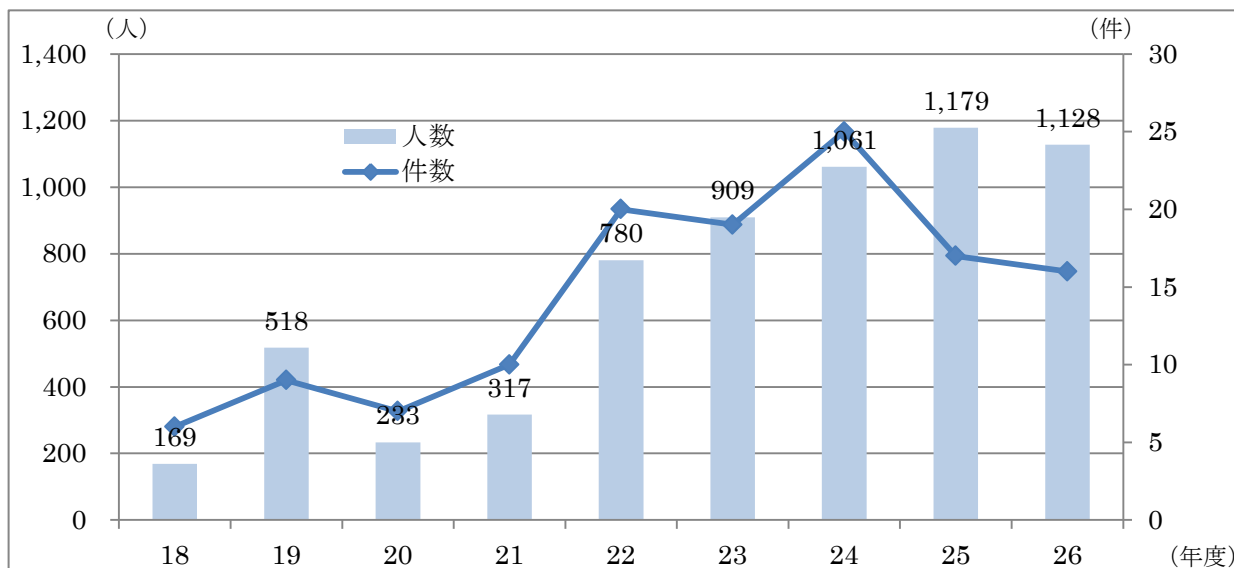
- 世界遺産登録効果により平成 23 年度から増加した観光客は減少傾向にあるものの、世界遺産登録前の水準よりは高い水準を維持している。（登録前年の平成 22 年度と平成 26 年度を比較すると約 1.3 倍の増）

(2) 観光船（クルーズ船）の寄港動向



- 観光船については世界遺産登録後の寄港頻度の増加が顕著であったが、平成 24 年度をピークに減少傾向にある。
- 寄港船数は平成 24 年度の 32 隻に対して、平成 26 年度は 13 隻。
- 日本籍では最大の客船である飛鳥Ⅱが平成 26 年度に小笠原初寄港。

(3) 教育旅行者数



- 教育旅行者数は世界遺産登録以降、高い水準で推移している。
- 平成26年度の16件の内訳として、100人以上の大人数の修学旅行が3件、大学のゼミや少人数の教育旅行が13件。新規が3件、継続が13件。大学・専門学校が6件、高校が7件、その他小学校等が3件。

2. 今後の主な観光振興への取組み

(1) 観光客の満足度向上への取組み

- 観光客の傾向やニーズを的確に把握するため、平成22年度から行っている観光マーケティング調査を継続して実施する。調査の分析結果については観光事業者等へ情報提供を行うことにより、各事業者に対しホスピタリティ向上の機運を醸成する。
- 地元食材を活用した飲食メニューや土産品の充実を図るための支援を実施する。

(2) 新おがさわら丸就航への対応

- 平成28年7月就航予定の新おがさわら丸の東京出港時刻が従前より1時間遅い午前11時に変更となる予定であり、東京前泊なしで乗船できる地域が広がるため、地方発の観光客が増える可能性がある。
- そのため関東圏以外の地域で、例えば中京圏等への戦略的な観光客誘致事業を実施する。